

令和5年8月8日

令和5年

第8回教育委員会定例会会議録

大田区民ホール・アプリコ

令和5年8月8日（火曜日）午後2時から

1 出席委員（6名）

小 黒 仁 史		教育長
三 留 利 夫	委 員	教育長職務代理者
弘 瀬 知江子	委 員	
高 橋 幸 子	委 員	
深 澤 佳 己	委 員	
北 内 英 章	委 員	

2 出席職員（19名）

教育総務部長		今 井 健太郎
教育総務課長		鈴 木 孝 司
教育施設担当課長		田 中 佑 典
副参事（教育施設調整担当）		小 池 武 道
副参事（教育地域力担当）		長 岡 誠
学務課長		大 竹 豊 和
指導課長		細 田 真 司
学校支援担当課長		鈴 木 啓 介
教育センター所長		早 田 由香吏
大田図書館長		後 藤 清
指導課 統括指導主事		古 川 大 輔
指導課 統括指導主事		中 治 謙 一
指導課 統括指導主事		秋 山 亮
指導課 指導主事		折 田 和 宙
指導課 指導主事		宮 澤 尚
指導課 指導主事		遠 藤 健 太
指導課 指導主事		村 松 千恵子
指導課 指導主事		原 口 慧 史
指導課 指導主事		清 水 天 音

3 日程

日程第1 令和6年度使用大田区立小学校教科用図書採択について

~~~~~

(午後 2 時 00 分開会)

○教育長

ただいまから、令和 5 年第 8 回教育委員会定例会を開催いたします。

本日は、小学校教科用図書採択の審議を行いますので、大田区教育委員会会議規則第 14 条により、教科書採択関係職員も出席しております。

本日は、傍聴希望者がおります。大田区教育委員会傍聴規則第 7 条により、傍聴人は議場における言論に対して批評を加え、または、拍手その他の方法により公然と可否を表明することは禁止されております。ご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、これより審議に入ります。本日の出席委員数は、定足数を満たしておりますので、会議は成立しています。

まず、会議録署名委員に北内委員を指名いたします。どうぞよろしくお願いいたします。続いて、本日の日程第 1 について、事務局職員の説明を求めます。

○事務局職員

日程第 1 は、「令和 6 年度使用大田区立小学校教科用図書採択について」でございます。

○教育長

それでは、令和 6 年度使用大田区立小学校教科用図書採択の審議を行います。

前回、第 7 回定例会におきまして、教科用図書調査委員会山本副委員長から調査報告がありました。

また、延べ 641 名の来場者から 340 件の意見と 60 校の学校から意見をいただきました。各委員には、教科用図書をお読みいただくとともに、調査報告及び区民、学校意見を参考に、真摯に調査研究を進めていただいたことと存じます。

今回の教科用図書採択の調査対象は、11 教科 13 種目です。審議は、本日と明日 9 日の 2 日間とし、10 日は予備日といたします。

これについて、ご異議のある方は、いらっしゃいますか。

よろしいですか。ご異議のないものと認め、審議は 2 日間といたします。

まず、本日は、国語、書写、社会、地図、算数、理科の 6 種目について審議を行います。審議が長引くようであれば、幾つかの種目を明日に繰り延べるということではいかがでしょうか。

よろしいですか。それでは、種目ごとに審議を行います。

はじめに、国語について審議を行います。委員の皆様にご意見をお願いいたします。

○三留委員

国語は、光村を推薦いたします。

今回の教科書も、各者、課題を子ども自らがもって、主体的に学ぶことを重視する構成になっていると思われました。光村では、冒頭に「国語の学びを見渡そう」があり、「読む」「書く」「話す」「聞く」の各領域で、児童が問いと見通しをもって学習する過程が示されています。各教材の後には、「学習」というタイトルの手引きページがありますが、それ

それぞれのページで、問いや目標、学習過程に沿った具体的な活動について示され、学習が進めやすくなっていると感じました。

物語文や説明文の前には扉ページがあり、全体に関わる問いや既習事項、読むためのポイントが示され、学習の見通しをもつのにも良いと思いました。

説明文については、3年生以降、各学年の当初の題材で、練習教材と主教材の2部構成になっているところがあります。練習教材は、見開きで構成されていて、上部にはじめ、中、終わりを示していて、視覚的に説明文の構造を捉えさせることができます。脚注には、学びのための問いが示され、学び方につながります。ここで身に付けた学習の仕方を使って主教材を自発的に学習するというようにしている構成は、主体的な学びという観点から優れていると感じました。

物語文については、各者共通する教材があります。1年、または2年の「スイミー」、4年の「ごんぎつね」「一つの花」、5年の「大造じいさんとガン」などです。どの者も問いやそれぞれの過程の取組について示して、活動を促していますが、光村の取り上げ方や投げかけは、児童の実態や作品の特色と合っていると感じました。

人の生き方を考えさせることができる伝記は、優れたものを教科書にぜひ取り上げてもらいたいと思っています。伝記は、3者全てに取り上げられていて、どの者の取上げ方も内容も素晴らしいと感じました。光村は5年で、やなせたかしさんの伝記を取り上げていますが、厳しい人生を送る中で漫画家になるという夢の実現と人を思う心を忘れず、生涯を送ったことに胸を打ちました。東日本大震災での被災地の人々との温かい関わりについても書かれており、ぜひ子どもたちに読ませたいと思いました。

また、各者、5年や6年で、宮沢賢治の作品が取り上げられています。「注文の多い料理店」「雪わたり」などの作品です。宮沢賢治の作品は、表現の工夫が多く、物語の流れや展開に面白みがある作品、リズムを感じる作品、情景描写に特色がある作品など様々で、子どもたちに味わわせたいと思っています。

光村は、6年で「やまなし」を載せています。「やまなし」は、優れた情景描写が特色の作品で、一読しただけでは児童にとって難解ですが、読み込むほどに様々な想像が広げられる作品で、6年生の児童に触れてほしいと思いました。

光村だけの特色として、作品の後に、「イーハトーブの夢」という資料が付けられ、賢治の生涯を紹介しています。賢治の生き方や考え方や作品を関連づけて学ぶことも大切なことと思いました。

光村は、2年、「あったらいいなこんなもの」、4年、「聞き取りメモの工夫」、6年、「聞いて考えを深めよう」など、「聞く」「話す」領域でも優れた教材があると思いました。

光村は、巻末で2年から「学習を広げよう」というタイトルの付録ページがあります。各学年の児童の実態に合った教材や図書の紹介などが載せられています。その中に、「話す」「聞く」「書く」「読む」の学習の重要事項をまとめた「大切なまとめ」のページがあります。学習の確認や、発展的な学びのために有用な資料ページだと感じました。

最終ページの折り込みの「言葉の宝箱」は、意見を言ったり、報告文を書いたりするなどのとき必要な言葉が並べられており、使えると感じました。その裏ページは、「図を使って考えよう」のページで、思考のための様々な手だてが示されていて、考えを整理したり、広げたりするために大切な記述だと感じました。

以上が、光村の推薦理由となります。

#### ○高橋委員

はじめに一言申し上げます。本日の採択まで、253冊の教科用図書を閲覧し、教科用図書調査委員会の報告、学校意見、区民意見を基に、大田区で使用したい教科書を選びました。

国語は、光村を選びました。文字が濃く太いので、字が読みやすい。あいうえおの学習では、口の開け方を児童の写真で分かりやすく掲載しています。文章の内容理解に必要な図や表、写真、挿絵が文章の内容に合わせて掲載され、大きさ、数も適切です。

「読む」学習では、単元末に「学習のめあてや大切」が色を分けて囲ってあり、「振り返ろう」は、国語でよく使われる言葉などが学習できます。学習は、説明する文章、物語、詩となっています。下段に書かれている漢字や解説は、学習の助けとなります。

「この本、読もう」の紹介、漢字の書き順があり、付録でも「この本、読もう」と、「本の世界を広げよう」で、どのような内容か書かれていて、興味が持てそうです。

巻頭に、「どうやって学んでいくのかな」と学習の進め方の確かめがあり、「見通しを持つ」「問を持つ」の後、「話す」「聞く」「書く」「読む」活動をし、「大切」で確かめをし、「振り返ろう」で、学習や生活に生かすと示しています。

「話す」「聞く」「書く」「読む」別にこれから学ぶこと、これまで学んだことのまとめも分かりやすい。伝え合うための言葉、学習に用いる言葉、言葉の宝箱は、学習や自分の表現に役立てることが出来ます。

巻末の資料では、「学習を広げよう」があり、大切なまとめや5年生では、点字と手話のページがあり、点字のあいうえおと数字、指文字のあいうえおが紹介されていて参考になります。「課題解決に向けて考える」として、プログラミング的思考についても学習するのに役立てる内容が掲載されています。

以上の点から、光村を推薦します。

#### ○北内委員

最初に、私の推薦方法に関してですが、どの教科用図書も甲乙つけがたい素晴らしい内容でしたので、すべての教科において、私は、おおたの児童に適しているかどうか、そして、将来どうなってほしいかを念頭において推薦いたしました。また、教科用図書調査委員会と学校意見および区民意見も参考にさせていただきました。

国語に関しては、光村図書を推薦いたします。推薦理由は、おおたの子どもたちが多様で複雑な社会を生き抜くためには、古典、昔話、伝統作品、海外作品、物語、ファンタジー、戦争、自然、環境問題、情報、デジタル社会などの題材がバランスよく扱われ、それぞれに読み応えのある教科書が適していると思ったからです。

全学年共通ですが、「この本、読もう」「本のせかいを広げよう」で名作を紹介し、自主的に読書することができるようになっていきます。また、付録「学習を広げよう」では、まとめと更に自主的に学習を進めることができるように配慮されています。

また、季節の折々にあった題材を扱い、春夏秋冬の言葉と風情を大切にしていると思います。全学年、算数、理科、社会、道徳、図画工作といった他教科との連携が図られて

いました。

具体的には、1年生では、比較的なじみのある昔話「おむすびころりん」が紹介され、2年生では、「紙コップ花火の作り方」で説明文の練習をします。

3年生では、「ちいちゃんの かげおくり」で戦争の話が紹介されています。また、「すがたをかえる大豆」の紹介があり、説明文の書き方と理科観察につながっていきます。

4年生では、友情に関する作品「友情のかべ新聞」、「スワンレイクのほとりで」が紹介され、友達の大切さとインクルーシブな題材を取り扱っています。また、「パンフレットを読もう」では、「中央清掃工場はどのようにゴミを処理しているのかな？」を紹介して、社会・環境とのつながりを意識させる題材を取り扱っています。

5年生では、環境問題として「固有種が教えてくれること」を取り上げ、そこから環境問題だけでなく、情報（図・表、グラフ）の整理の仕方を学びます。

6年生では、自然観察として、「星空を届けたい」から「光害」についても言及されています。

以上、および調査委員会、学校意見、区民意見を参考に、私は、光村図書を推薦いたします。

#### ○深澤委員

私も、国語は光村図書を推薦したいと考えております。その理由ですが、光村図書は、季節感について大切にしており、2年生以上では、季節の言葉というページがあり、春夏秋冬、それぞれ季節特有の歌やもの、言葉などを紹介しています。

漢字の勉強については、「漢字の広場」のページがあり、絵に示されている漢字を使って自由に文を作ってみることで、漢字の定着を図るのが、漢字の実際の使い方を学ぶことができるために良いと思いました。

教科書用図書調査委員会の質疑で、読解力を高めるためには、文学作品を児童が読み返しながら、登場人物の心情等について自分の考えを深められるような構成になっていることが重要であると指摘されていましたが、光村図書が、文学作品がかかる構成になっていると考えました。

また、光村図書では、ファンタジー物語が2年生から5年生にかけて数点ずつ掲載されており、空想を要する度合いが、上級学年に進むに従って高度な想像力を養うものとなっています。子どもたちが国語を学ぶことの意義は、読み物から何かを感じ取り、そこからヒントを得て、心を豊かにしていくことだと思います。近年、急速にICT教育が充実してきていますが、パソコンではなく、紙媒体の教科書でじっくりと文章を読み、想像する時間を大切に、新たな視点に気付いてほしいと思いました。

3年生からは、過去の戦争に関連する物語を随時取り入れているので、平和の大切さについて学ぶことができます。

6年生では、「考えるとは」という題材が印象的でした。AIは、過去のデータから効率的な結論を導くことができますが、人は、要旨に基づいて、何が正しいか考えて結論を導くことができます。考えることの重要性について学ぶ題材です。AIが急速に普及している現代社会において、どのように人間とAIが共存していくか考える良い題材であると考えました。

光村図書が、このように現代社会における課題まで取り入れ、素材が多岐にわたり、読み物の内容も工夫されていました。文章の成り立ち、相手に分かりやすい文章の構成、インタビューの仕方、手紙の書き方など、日常生活を送る上で必要な理解を進めるための方法も様々示されていました。

学校意見でも、区民意見でも、光村の肯定意見が多数ありました。

以上の理由から、私は、光村図書を推薦いたします。

#### ○弘瀬委員

私も光村図書を推薦いたします。

教科書を広げると小さな折り込みがあって、「国語の学びを見渡そう」で、学習の進め方、学びの見通しが分かるページになっていて、教科書の中身がどのようになっているかが分かるようになっていました。「どうやって学んでいくのか」は、国語の学び方が一目で分かるようになっていて、「間を持つことから始めよう」では、子どもたちのなぜという間、そのきっかけが非常に大事だと思っております。

「話す」「聞く」は緑色、「書く」は青、「読む」は赤で統一されていて、見やすくなっていると思った。

「大切」では、学習で押さえておきたい大切なことを書いてあった。

3年生の上では、上段に3年生が学ぶこと、下段に2年生で学んできたことが一目で分かるようになっている。

そのほか、1年間の国語の目標を書く所があり、学年の最後に国語の学習を振り返るページがあって、振り返りを大変大事にしている本だと思った。

いろいろなテーマ文学作品、例えば「風船でうちゅうへ」とか、「人間はほかの生物と何が違うのか」、もしものときに備える防災に関するもの、食品ロス、デジタル機器と付き合うために気になることを調べて提案する文章など、いろいろなテーマが豊富にそろえてあり、読みごたえがあると思った。

「ロボロボの言葉について考えよう」、4年生の「文章のつながりに注意しよう」、5年生の「言葉を使い分けよう」など、日常使う文章で注意しなくてはいけない言い回しや書き方、4年生の「文章のつながりに注意しよう」というのは、なぜ言い方によって気分が悪くなる人がいるのだろうか、あるいは5年生の「言葉を使い分けよう」では、待ち合わせの場所がどうしてうまく伝わらなかったのかなど、日常よくありそうな言い回しや言葉で注意すべきものであった。

言葉の使い方をしっかり勉強してほしいと思った。言葉の宝箱や思考ツールの使い方を示した「図を使って考えよう」は、文章を整理したり、考えを広げたりするのにとても便利であると考えた。

他の教科書に比べて、非常にいろいろなことが考えられている教科書であると感じた。二次元コードも非常に豊富でした。幾つかの作品が、ほかの出版者でもありましたけれども、光村が多岐にわたってバランス良く書いてあると思ひまして、光村を選びました。

#### ○教育長

私も光村が良いと思ひました。言葉を大切にした国語教育という点で一日の長があるよ

うに思います。

まず、言葉の力が育つ国語教育という点で、良い教材文が多く載っているように思います。

6年生では、宮沢賢治の「やまなし」という作品があります。5月、12月の谷川の様子や、カニの兄弟の会話など、文章から情景や気持ちを豊かに想像するという点では、とても良い教材だと思います。

また、5年生の「固有種が教えてくれたこと」という教材がありますが、日本には、日本固有の動物が大変多いことを、日本列島が大陸と離れていく地殻変動の歴史とともに解き明かしていく説明的な文章です。資料や図が有効に活用され、今、子どもたちが求められている読解力を育む上で、大変に有効な教材であると思います。

また、光村は、国語力を高めていくということで、6年生の単元では、「鳥獣戯画を読む」という教材がありますが、有効な単元の構成になっていると思います。鳥獣戯画という絵画の特色を表現した文章を読み深めて、その学習を生かして今度は、「自分自身が発見、日本文化の魅力」ということで、日本の魅力を伝える文章を書き表すという学習に発展させています。文章を読んで学んだ述べ方を生かして、自分の考えを文章に表していく学習は、今求められている読解力を高めるために有効な学習であると感じました。

さらに、6年生の最後の単元には、「海の命」という作品が載せられ、生きること、命をつなぐことについて考えさせるなど、文章や言葉を読み取っていくことで、考えを深める良い教材が多いように思い、言葉の教育という点で、一日の長があるように思います。

それでは、審議のまとめをいたします。国語につきましては、光村が最も評価が高かったということで、まとめてよろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

#### ○教育長

それでは、国語については、光村といたします。

続いて、書写について審議いたします。委員の皆様にご意見をお願いいたします。

#### ○三留委員

書写は、光村を推薦いたします。

書写も課題解決型の学習を意識した記述が各者に見られます。光村は、3年生以上の各ページでねらいとともに、「考えよう」「確かめよう」「生かそう」といった学習の進め方が示され、それによって学習が進められるようになっています。

書写の始まる1年では、冒頭に基本的な取組の仕方や興味付けを図るための初期指導に、各者は力を入れています。光村は、書写スタートブックのまとまりを設けています。その中には、書写の約束や生活の中の文字を探させるページなどが見られます。その後、字を書く姿勢、鉛筆の持ち方、運筆練習などについて丁寧に記載されています。とめ、はらい、はね、まがり、おれ、むすびなどについては、分かりやすい表記になっていると感じました。

2年生以上では、「書写広げたい」として、原稿用紙、手紙、招待状の書き方などが発

達段階に即して載せられていますが、書写の学習を応用して取り組めるような構成が良いと思いました。

3年では、各者、毛筆の書記指導のページがあります。光村は、毛筆スタートブックで、「毛筆の秘密」や「鉛筆と比べよう」のページがあり、子どもの興味や気付きを引き出すような内容があります。横画、縦画、折れなどの説明にともなって、始筆、送筆、終筆の仕方について具体的に解説をしています。

毛筆について、光村は、書く際の穂先の位置をオレンジ色で示しているのが特徴で、一目で筆の置き方や動かし方が分かるのが良いと思いました。

6年生には、書写ブックが付けられています。各学年で学習してきた原稿用紙の使い方や、手紙やはがきの書き方など、今後の学習や生活で必要になることがまとめられています。

書写ブックは、取り外しができ、これまで学んできたことを日常生活や他教科の学習に使えるようになっているのは、良いと思いました。

各学年の巻末の「大切なまとめ欄」は、学年で習った書き方の重要ポイントを示しており、活用できると思います。2年生以上にある「もっと知りたいコーナー」の内容は、子どもにとって興味をひくと感じました。

光村は、二次元コードの数も内容も充実しています。右手だけでなく、左手で書く子どものための動画など、様々なコンテンツがあり、これからの書写の学習には必要だと思いました。

以上、総合的に判断して、光村を推すことにいたしました。

#### ○高橋委員

書写は光村を選びました。1年生の巻頭に、書写の約束がイラストで示され、「すたーとぶっく」で「名前を書こう」、「文字探検隊」、「書写体操」、「字を書く姿勢」、「鉛筆の持ち方」、「いろいろな線を書こう」と学習が始まります。ぴたっ、線を止める所、ぐるうりと回す所が、猫のイラストでポイントが分かるように工夫してあり、書く基本が学べます。

平仮名の学習では、「鉛筆で書こう」があり、すうっ、ぴたっ、止まって、ぴょん、ぐるうり、ぴたっポイントを練習する写真があり、分かりやすいです。お手本がオレンジで見やすい。

3年生は、毛筆スタートブックがあり、「毛筆の秘密」「用具の準備」「書くときの姿勢」「鉛筆と比べよう」「用具の片付け」「穂先の向きと軸の傾き」「空書き」そして、「線を書こう」で様々な線を書くことから始めている。

始筆、送筆、終筆を猫のイラストで、トン、スー、トン、穂先ちゃんのイラストで、力の入れ方は、しずくの形で大きさと数字で変えるよう示しています。

見開きページで左側に見本、右側に「たいせつ」が書かれていて分かりやすい。

4年生でSDGsブックが小さいサイズで挟んであり、書写で学習したことを生かして、自分たちにできることを伝えようと学べる。

6年生では書写ブックがあり、今まで学習したことを日常生活に広げていこうとして、学年ごとの手紙、はがき、新聞、ポスターの書き方が掲載されている。

「たいせつ」で学んだことの確認。「書写広げたい」では、他教科との関連教材として、

学習の充実を図っています。漢字には書き順も示されています。「できたかな」で振り返りをしながら学習を進めていける。

資料としては、「言葉のページ」は、ことわざなどがあり、なぞり書きができ、文字の練習にもなります。「もっと知りたい」は、漢字を早く書く場合、「筆記具図鑑」「全国筆、紙、墨、すずりマップ」「文字の歴史」が掲載され、学びに生かせる。

書き初めは手本が多く、各位置の目印が参考になる。

「消しゴムはんこの作り方」は、刻印を知るきっかけになる学習です。「私の文字」では、有名人のサインとメッセージにより、自分の文字を振り返る活動もよいと思います。

以上の点から、光村を推薦します。

#### ○北内委員

書写は、光村図書を推薦します。推薦理由は、筆や硯など用具を使う科目では、それらの机の上での配置など準備段階から大切だと思えます。また、鉛筆と筆の持ち方、書き方、書く姿勢など、先生の指導だけでなく、自主的に学習できるように配慮されている教科書が良いと思いました。

光村図書におかれましては、用具の配置、書くときの姿勢、鉛筆と筆の持ち方が、写真とイラストで様々な角度から示され、児童は分かりやすく、自主的に進めることができると思えました。毛筆の「はらい」「はね」「とめ」など筆の使い方と筆圧について、オレンジ色とイラストで分かりやすく示されていました。

「書写のごみをゼロにする」「プラスチックフリーをめざす」など、SDGsに配慮されている。更に、感染症対策やジェンダーレスなど最近の題材も扱っていました。

配色、髪質、配置などバランスが良く、国語との整合性も良いと思えました。全学年、自主的に学習できるように配慮されていると思えました。

学校意見、区民意見においても、光村図書に肯定的な意見が多かったです。

以上の理由から、私は、光村図書を推薦します。

#### ○深澤委員

私も、書写は光村図書を推薦いたします。

まず、国語の教科書は光村図書が良いと考えていたので、国語と書写の教科書の内容の整合性を考えて、書写も光村が良いと考えました。教科書用図書調査委員会の質疑では、書写について正しい筆記姿勢や、毛筆を紙に置く際の角度といった、文字を書く技術を習得するための基礎的な知識を身に付けることが求められると回答されていました。

光村図書は、どの学年でも筆記姿勢を大切にしていました。毛筆については、3年生で毛筆スタートブックがあり、初めて毛筆を使う際に分かりやすかったですし、毛筆による書写のお手本の大きさも良いと感じました。動画も充実していました。

北内委員もおっしゃっていましたが、学校意見でも、区民意見でも、光村図書への肯定意見が多数ありました。

以上の理由から、私は、書写については光村を推薦いたします。

#### ○弘瀬委員

書写は光村を推薦いたします。1年生のスタートブックでは、字を書くときの姿勢、3年生では毛筆のスタートブックが設けられていました。書写の学び、あるいは毛質の学習に入る前の説明としては、非常に分かりやすいと感じました。すーと来て、ぴたっとなどの猫を使ってぴたっと止まるなど、とても楽しく学べると感じました。

SDGsも積極的に取り入れられていて、3年生から6年生の教科書の裏にSDGsのコーナーを設けていました。教材の文字は、大きくはっきりしていて、これは、半紙と同じ比率のために、お手本としても使いやすいと感じました。

学習の進め方が一目で分かり、また「大切」でポイントが分かりやすく説明していました。6年生の書写ブックでは、6年間で学ぶ書写の要点がまとめられていました。手紙の書き方、横書きの書き方などのポイントが示されているところなど、参考になるところが非常に多く、内容も充実していると感じました。

二次元コードで毛筆や硬筆の筆遣いを二つの方向から見ることで、分かりやすい解説となっていると感じました。これらの点から光村図書を推薦いたします。

#### ○教育長

私も書写につきましては、光村が良いように思います。書写は、文字を整えて美しく書くということを狙いとしていますけれども、3年生から習う毛筆では、運筆と言われる筆の運び方を学ぶことが大切だと思います。特に筆の入り方、筆の運び方、筆の止め方を身に付けることが重要であると思います。

光村の教科書では、写真や墨の濃淡を生かして筆の入り方、運び方、止め方など、筆の動きが分かりやすく示されているように思います。

また、とん、すー、とんなど、筆を運ぶ早さやリズムについても工夫して示されているように思います。

筆の動きについては、二次元コードの動画が非常に分かりやすいと感じました。毛筆では、筆を倒さず、立てたまま書いていくことが大切だと思いますけれども、それが、肘や腕の使い方など、丁寧に示されている点も良いと感じました。

それでは、審議のまとめをいたします。書写については、光村が最も評価が高かったということで、まとめてよろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

#### ○教育長

それでは、書写については、光村といたします。

続いて、社会について審議します。

#### ○三留委員

社会は、東書、教出、日文の3者のうち、東書を推薦いたします。

各者の教科書を読んで、どの者も問題解決的学習を前面に押し出して、教科書づくりをしていると捉えました。

その中で、東書は、各学年に学習の進め方のページがあり、小単元をまとまりとした問

題解決的学習の仕方や、それぞれの段階での学習方法などについて、分かりやすく見開きでまとめられています。

問題づくりや学習計画にもこだわって作られた教科書と感じました。各ページで、小単元サイクルの位置付けと、1時間1課題の学習が明確に示され、児童が見通しを持って学習できるような構成になっていると思いました。

まとめの段階のページに、小単元の問題を再度示しているのは2者ですが、東書もその一つです。これは、小単元サイクルの学習に必要な配慮とっております。

目次ページには、デジタルコンテンツの説明や「コンピュータを学習に生かそう」というコーナーがあります。デジタルコンテンツは、豊富で様々な活用ができると思いました。

東書で良いと思ったのは、地域や産業などの学習で活躍している人物の話が豊富に載せられていて、内容も充実していることです。人の姿から学ぶことは、社会科の学習でも大切なことと考えています。

東書は、各学年で学び方コーナーが設けられています。「見る・聞く・触れる」「読み取る」「表す・伝える」の三つの観点からは様々な学びの形を記述しています。資料活用を力をつけたり、表現力を高めたりする上でも有効と考えました。

まとめの時間の学習については、調べたことを整理・考察して、作品づくりや発表につなげていく重要な役割を果たしており、多様な表現活動をしていくことが大切とっております。また、獲得した知識の定着という意味でも、大切な活動です。東書は、まとめの表現活動の例が、豊富でバラエティーに富み、充実しているように感じました。

東書は、内容構成にも工夫があると感じました。例えば、5年の国土単元では、国土の地形を概観してから、地形条件に適応した地域の学習、日本の気候を概観してから、気候条件に適応した地域の学習をしています。こうした構成は東書だけで、子どもにとって理解しやすいと考えました。

6月に閣議決定された第4期教育振興基本計画では、「グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成のために、様々な活動を通して、主体的に社会の形成に参画する態度を育成する必要がある」としています。社会参画という視点で教科書を読んでいくと、各者の特色が出てきます。

東書は、「つかむ」「調べる」「まとめる」の過程の後に、「広げる」「生かす」の段階があり、「生かす」の段階では、意図的に選択判断する学習を盛り込んでいます。「生かす」ページのほとんどが、社会参画を意図したものになっており、社会への主体的な参画を促したり、様々な立場を考えた話し合いをしたりする場面の設定をしています。3年の「火災や事故」、4年の「水や廃棄物」、5年の「食料生産」、6年の「政治国際単元」などに見られます。6年の「世界の中の日本の学習」の「生かす」のページでは、SDGsの17の目標を参考に、世界の様々な課題の解決のために、自分たちができることを考えようという問いかけをして、カードにまとめる活動しています。SDGsに関わる意識付けをする上でも、意味ある学習と思いました。

各者の教科書で、4年と5年で、大田区の取組や事業所、ゆかりのある人物などが取り上げられています。取り上げられているのは、工業、運輸に関する取組、廃棄物処理の取組、森が崎水再生センター、地域の文化の発展に寄与した人物としての川端龍子などです。

5年生では、東書と教出で運輸に関する資料として、京浜島のトラックターミナルが紹

介されています。教出は、本文に大田区、トラックターミナルという記述はなく、「貿易を支える輸送手段」というタイトルのページの4点ある写真資料の一つとしての扱いです。

一方、東書は、教出よりも大きく、広く見渡せる写真となっています。本文に、「大田区」「広いトラックターミナル」「空港」などのキーワードがあり、トラックターミナルの役割も書かれています。

また、羽田空港、京浜島、大田市場、平和島などの名称の記載が入った地図の中で、トラックターミナルの位置を示しています。

私は、工業の学習に関わって、大田区のものづくりのすばらしさについて、児童に実感してほしいと思っています。そのためには、大田区が事例地として取り扱われていることが大切と考えています。

中小工場、ものづくりの事例地は、東書が大田区、教出と日文は東大阪市です。日文には、大田区に関わる工業単元での記述はありません。教出は、大工場と中小工場の違いについて書かれたページで、各地の取組を紹介していて、その一例として、大田区の金属部品の工場写真や働く人の話などを掲載しています。

東書は、「これからの工業生産と私たち」の単元で、大田区の工場の取組、金属のへら絞り工場の様子が写真と文章で取り上げられ、事例地として取り扱っています。この時間の課題は、「ものづくりのまち、大田区が誇る技術は、どのようなものなのでしょうか」となっており、まさに、大田区の良さや大田区の工業生産の特色を学ぶ学習になっています。

本文の内容は、「世界にもここにしかない特別な技術を持った工場」「オンリーワンの技術は、国内外で評価されています」「高い品質の製品」などの言葉が見られます。大田区で行われている工場同士の共同による「仲間まわし」と言われる取組について、「みんなの得意な技術を持ち寄り、高い品質の製品ができます」と図を含めて解説しています。大田区の業種別工場数の割合のグラフも載せられ、京浜工業地帯や全国と比べての特色をつかむことができます。

東書は、大田区のものづくりの良さや大田区の工業生産の特色を学ぶ学習になっており、このことを児童に客観的な見方として捉えさせることは、大切なことと考えております。

また、東書は、5、6年生だけ2分冊になっていることについては、賛否があると思います。特に6年生は、歴史編、政治国際編と分かれており、学習指導要領の順序性との違いから、指導しにくいのではないかという指摘もあります。しかし、歴史編、政治国際編ともに、1学期当初に配られるということもあり、大きな問題はないと思います。むしろ、歴史編であれば、歴史的な内容が1冊にまとめられていたり、索引が歴史的な用語のみの掲載となっていたりするなど、使いやすい面があると思います。

以上、総合して、東書を推薦いたします。

#### ○高橋委員

社会は、東書を選びました。写真とイラスト、文章のバランスが良く、単元ごとに学習する内容が色分けしてあり、分かりやすい。その時間ごとのキーワードが太字にしてあり、「言葉のコーナー」で確認できる。キャラクターの発言があり、共感しながら学習を進められる。ドラえもんが目印のマークで、位置や広がりに着目、時間に着目、関わりに着目、

比べる、分類する、総合する、関連付けると見方・考え方を働かせて学習します。用語解説で難しい言葉を分かりやすく説明しています。

学習の進め方は、「つかむ」で学習のめあてを示し、学習問題や調べることがあり、「調べる」、「まとめる」、「いかす」で構成され、学習を進める上での学びの手順を分かりやすく示しています。

「学び方コーナー」は、学習のために大切な学び方を紹介しています。

「広げる」ページは、学習したことを基に、さらに調べたいことや主な事例の代わりなどを示してあり、興味・関心が持てそうです。

「平和学習の街ヒロシマを訪ねて」には、平和について考えようがあります。

「工業生産を支える運輸と働き」では、京浜トラックターミナルと周りの地図、羽田空港の写真があり、身近に関心が持てそうです。

国民の権利、義務の学習では、イラストで説明しているのでイメージでき、理解しやすい。

「震災復興の願いを実現する政治」では、震災後の復興の進められ方が、気仙沼市の写真などから学ぶことができます。

「世界の未来と日本の役割」では、SDGsの達成に向けて様々な活動が学習できます。

歴史編では、その時代の主な出来事を年表で掲載してあり、学習に役立てられる。日本の世界文化遺産は、日本地図と20の世界文化遺産が写真と説明が一覧になって掲載されている。

巻末の年表は、日本の主な出来事、観光地の写真があり、主な人物、世界の主な出来事が一覧にしてある。

巻末の「各学年で学んだことを振り返ろう」は、写真とイラストでまとめてあり、分かりやすい。

以上の点から、東書を推薦します。

## ○北内委員

社会は、東京書籍を推薦いたします。推薦理由は、日本の工業を支える大田区のまち工場など、児童が自分たちの住む街に自信を持てる教科書が良いと思ったからです。先ほど三留委員からありましたが、大田区が日本代表、世界代表として掲載されています。

例えば、5年生の単元「これからの工業生産とわたしたち」では大田区のまち工場が、「工業生産を支える運輸と貿易」では京浜トラックターミナルと羽田空港が掲載されています。

特に、5年生「高い技術を生かした工業生産」では、見開き2ページにわたって、「伝統工業とのコラボレーション製品」として、大田区の富永さんの工場と輪島塗の工房が共同で製作したカップが紹介されています。繊細な形を表現するための、しぼりの技術が紹介されています。

また、同じく大田区の田中さんの工場では、「特しゅなペンで書いた文字や図形」で香川県の特別支援学校に頼まれて、書くと字がもり上がり、目の不自由な人がさわって文字を確かめることのできるペンを設計した話が紹介されています。ここでは、それぞれのまち工場の得意分野を出しあって、一つのものを作り上げる「仲間まわし」について紹介さ

れています。

全学年共通ですが、学習過程が、「つかむ」「調べる」「まとめる」（「いかす」）で構成され、児童が学習を進める上での学びの手順を見通しやすく工夫されています。

また、自然災害、防災についても詳しく書かれており、3年生では「暮らしを守る」で火事を取り扱い、4年生では「自然災害から暮らしを守る」、5年生では「低い土地の暮らし」で水害・水防演習、「自然災害を防ぐ」で地震、津波、風水害、火山災害を詳しく扱っています。6年生では、単元「震災復興の願いを実現する政治」で、東日本大震災、原子力発電所について述べています。

南北に長い日本の農産物の分布と四方を海に囲まれた日本の水産物の分布を分かりやすく図示している点も良いと思いました。

写真とイラストを適宜用いて、分かりやすく説明しています。例えば、3年生では「ごみのしよりと利用」とリサイクル、5年生では「用水路と排水路のしくみ」、6年生は「古墳を築いている様子」を分かりやすく説明しています。

また、SDGsへの取り組みも書かれています。5年生では、「再生可能エネルギー」について、太陽光発電、風力発電、地熱発電、バイオマス発電について紹介しています。6年生では、単元「世界の未来と日本の役割」で、SDGsの目標を一つ選んで調べる学習を実践しています。

学校意見では、東京書籍に肯定的な意見が多いです。区民意見では、それぞれに意見は分かれますが、全体のバランスを考えて、私は、東京書籍を推薦いたします。

#### ○深澤委員

私も社会は、東京書籍を推薦いたします。東京書籍は、全学年を通して、学習過程が「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」で構成されている点が良いと思いました。

特に、その項目で学んだことを自分の生活に「いかす」学習の進め方をしている点が良いと思ったのは、6年生の政治国際編です。例えば、日本国憲法で国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の基本原則について学んだ後、それら原則が、私たちの暮らしにどのように生かされているのかを考え、さらに、その取組を広げていくためには、どのようにすればよいのかについて考えていきます。

憲法の諸原則を知識として学ぶだけではなく、自分の生活に関連付けて、より良い社会をつくるための工夫を考えることで思考力を鍛え、未来社会を創造的に生きる子どもの育成につながると考えました。

国の政治の仕組みについて学んだ後、地方自治について学びます。そこでも、「いかす」の学習で、地域の公園づくりをどのように進めていけば良いか、話し合う構成となっています。地域の公園は、自分の生活に近い所であり、自分たちの意見で自分たちの生活をより良く変えていくことができる。それが、民主主義なのだということを考える材料になると思いました。

教科書用図書調査委員会の質疑で、今後の社会科の教科書用図書としては、学習者が自らの考えで学習活動を選択し、実践する力を身に付けることができるように、どのような課題解決の方法がよいのか、参考になる学習活動の例示があるとよいと回答されていますが、東京書籍は、そのような学習活動の例示に優れていると考えました。

6年生で学ぶ歴史は、その時代に活躍をした人を中心に解説されているのが分かりやすいと思いました。例えば、聖徳太子、平清盛など、歴史上重要な人物については、出生から死亡までに起こったことを年表にしていまして、時代が進むと、例えば、江戸時代の江戸幕府の外交の歩みや、明治時代における条約改正の流れなど、小さなテーマに沿った年表が添えられているところが、教科書中の文章と相まって、分かりやすくてよいと考えました。

5年生の「私たちの生活と工業生産」では、大田区がものづくりのまちとして見開き1ページにわたり、その優れた技術がオンリーワンであるとして、国内外で高く評価されている旨の紹介がなされていました。自分の住んでいる地域が世界に誇るものづくりの町であることを、大田区の子どもたちにぜひ読んでほしいと思いました。

学校意見でも、東京書籍への肯定意見が多数ありました。

以上の理由から、私は東京書籍を推薦いたします。

#### ○弘瀬委員

私も東京書籍を推薦します。学習の進め方で「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」でそれぞれ具体的な学習の進め方が説明してあり、分かりやすいと思いました。

さらにピンクは資質・能力を確かに育てる、黄緑では子どもの学びを広げる、緑で授業づくりをサポートする等々、色分けをしてあることで、指導しやすいと感じた。

教科書の中にある二次元コードを読み取り、導入の動画、ワークシート、学び方の解説動画、クイズなど、いろいろなコンテンツにアクセスすることができ、楽しみながら学びを広げることができました。

「見方・考え方」では、ドラえもんによる空間、時間、相互関係の三つの視点に立って説明してあります。金沢市の水道の移り変わり、フランスの人々の生活の様子と日本の生活の共通点や違いを話し合っって学習を進めていくなど、子どもたちの興味が湧くような視点に立って教科書を作っていると思います。

あまおう農家の人、市役所で働いている人など、多くの職業に携わっている人からのメッセージは、新しい発見につながるものではないでしょうか。

さらに、マイタイムラインを作ることは重要なことで、ぜひ二次元コードからマイタイムライン、ワークシートを利用して、各自作ってみるのもいいと思いました。

そのほか、SDGsや人権、平和、防災、安全、政治活動、選挙の仕組みと税金の働き、エネルギー問題、環境問題、ICTなど、いずれも詳しく触れていました。

最後に、大田区の町工場、京浜トラックターミナル、羽田空港等、大田区が紹介されていました。

以上より、東京書籍を推薦することにしました。

#### ○教育長

私も社会につきましては、東京書籍が良いと思いました。社会科は、社会的な課題を追求することを通して、社会の形成者としての資質・能力を身に付けることを狙いとしていますけれども、そのためには、知識を覚えるだけではなくて、社会について意欲を持って探究的に学習していくということが大切だと思います。問題解決的な学習という点で東書

は、一日の長があるように思いました。

まず、単元において課題を「つかむ」「調べる」「まとめる」という課題解決的な学習の過程がはっきりと示されています。

また、子どもたちが社会科で課題解決を進めていくための学習問題を設定するということが、非常に大切だと思いますが、東書の学習問題は、比較的シャープで深い学習に結びつくことができるのではないかと思います。

例えば、国の政治の仕組みと選挙の単元の学習問題は、私たちの国の政治は、国民の願いを実現し、国民の生活の安定と向上のためにどのような働きをしているのでしょうか、となっています。単に国の政治の仕組みはどのようになっているかという漠然とした問題意識ではなくて、働きというところまで視点を深めているところで、より深い学習ができるように思います。

また、5年生の「これからの工業生産と私たち」の単元では、高い技術を生かした工業生産のところで、大田区のものづくりが紹介されています。ここでは、仲間まわしとして、高度で得意な技術を持ち寄って、新しい製品を開発しているということや、大田区の工場が、その工場しかできないオンリーワンの技術、国内外で高く評価されていることも示されています。

本区では5、6年生で「おおたの未来づくり」という新たな教科の新設に取り組んでいるところですが、大田区としては大田区のものづくりに対する理解を深める上で重要な内容であるというふうに思います。

また、東書には運輸と貿易の学習の中で、大田区の京浜トラックターミナルや羽田空港が取り上げられています。運輸や貿易の集積地として、大田区の特徴を学ぶ上でも、大田区の子どもたちにしっかりと認識を深めてもらいたい内容であると思います。

それでは、審議のまとめをしたいと思います。

社会科については、東書が最も評価が高かったということでまとめてよろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

#### ○教育長

それでは、社会については、東書といたします。

ここで5分間、午後3時8分まで休憩を取りたいと思います。

( 休 憩 )

#### ○教育長

それでは、審議を再開いたします。

続いて、地図について審議します。

委員の皆様のご意見をお願いいたします。

#### ○三留委員

地図につきましては、東書、帝国の2者のうち帝国を推薦いたします。

帝国は3年生からの地図帳の初期指導にページを取って、地図記号、土地利用など丁寧な記載がなされています。

例えば、学校や周りを描いた鳥瞰絵図と、真上から見た絵図が2者ともに載せられていますが、帝国は図が大きく子どもから様々な発想がなされるような構成になっています。

さらに、空中写真と地図の対比に発展させて、地図の特色が分かるようにしていると感じました。地図帳の使い方のページも4ページにわたり、分かりやすく記述されています。

冒頭のページは2者とも片観音開きの世界地図になっています。どちらの地図も各国の挨拶、文化遺産、生物、特産物などを載せ、児童の興味を引くような構成がなされています。帝国は各国の挨拶を二次元コードで読み込んで、ネイティブの発音で挨拶を聞くことができます。紙面には、いろいろな国の言葉で「こんにちは」を言ってみようというあり、外国語科などで関連した学習ができると思いました。この世界地図では、帝国では主な国の国名だけですが、東書は全ての国名が書かれています。後で世界の詳しい地図がありますが、全ての国の国名を入れるべきであったと思います。

帝国の大きな特色は、各地方周辺も載せた、広く見渡す地図が入っていることです。位置関係や広がりなどがよく捉えられます。例えば、九州地方を中心とした地図では、対馬や五島列島も島全体が位置関係そのままに載せられています。また、各地の地図と比べて、地図に盛り込む地図情報量を精選してあるため、地図の段階的指導という意味でも大切と思いました。ただ、北海道地方については、北海道を少し小さくして、周辺部をもう少し入れるとよいと思いました。

日本各地の地図については、地勢図タイプの地図となっていますが、帝国の地形の表現は、濃淡が分かりやすく見やすく感じました。

関東地方の附属ページには、首都東京の地図が描かれています。首都東京とあるページで2者ともに23区中、2区の名前が出されていません。地図に自分の住んでいる区名のない児童が自分の区は首都の一部ではないと捉えてしまう懸念があります。東書には、大田区が載せられていますが、一部のみです。帝国には大田区はありません。ただ、帝国は、東京都とその周りの地図で大田区を載せ、町工場や大田市場、羽田空港などを紹介しています。

また、帝国には、歴史に関わる記載が幾つかあります。昔の日本の各地の地名の入った地図、五街道が入った地図、江戸のまちの地図などの資料は、児童が興味を持つと思いますし、知ってほしいことだと思います。

世界地図については、東書は地勢図タイプの地図のみです。帝国は、地勢図タイプのものと行政図タイプのものとの両方が示されています。地勢図タイプの地図は、「アジア・オセアニア」「ヨーロッパ・アフリカ」「南北アメリカ」の三つで、広く見渡せるようにした上で、「アジア」「ヨーロッパ」「アメリカ合衆国」の行政図タイプの地図が載せられています。6年の社会学習では、我が国と経済や文化などの面をつなぐの深い国について学びますが、この点においても、帝国の取り上げ方はよいと思いました。

日本の自然災害のページについては、2者とも、いつどこでどのような災害が起きたか、地震を中心に分かりやすく示してあると思いました。帝国は、世界の地震の分布地図や、近頃の基礎災害の資料もあります。さらに、自然災害への備えについても詳しく資料を提示しています。防災マップづくりの例が示され、避難について考えさせる問いかけもあり

ます。防災教育との関連で活用できると思います。

帝国は、SDGsに関わるページも設定し、世界全図や写真等で各地の状況や取組を紹介しています。SDGs未来都市である大田区の児童には、学ばせておきたいことと思いましたが。

また、帝国は、各ページに地図学習に関わる多くの二次元コードによる様々なコンテンツが充実しています。各所にある地図マスターへの道というコーナーでは、地図を見る視点や問いかけが示され、内容も優れていると感じました。

以上のことから、帝国書院を推薦いたします。

#### ○高橋委員

地図は帝国を選びました。

巻頭に世界地図、次ページに日本地図が掲載され、色合いがすっきりして見やすい。世界地図に英語が付記され、「世界の国からこんにちは」の挨拶があり、日本地図などの漢字には振り仮名がつけられているので、読み方も確認できます。

「発見しよう」は、地図から探すクイズで発見する楽しみがあります。「地図の世界へようこそ」では、角度を変えて、写真から地図に表したものを見開きで分かりやすく説明されています。

その後、「トライ」で問題があり、答えは次ページ下にあるので、確かめられます。地図帳の使い方も丁寧に示されていて、距離の求め方は実用的です。広く見渡す地図は、色合いがすっきりして見やすく、名称、名物が示され、日本の領土とその周りには国の範囲、東京からの距離、島の写真が掲載されています。

「地図マスターへの道」が100問あり、正しく答えてチェックを入れながら挑戦することで、地図を使った学習ができます。地図のページに、江戸時代の結びつきが示され、各街道や所要時間、江戸の地図ではイラストで説明もあり、興味を持ってそうです。

主要都市は5万分の1など詳細図が掲載されています。世界と地球儀では、使い方、様々な視点で見る地球、平面の地図があります。

世界地図には、「集まれ世界の子どもたち」と「世界のSDGs」が紹介され、興味関心が持てます。アメリカ合衆国の地図には、メジャーリーグの野球チームが示されています。

日本の自然の様子や、自然災害と防災の学習では、プレートがはっきり示され、防災への取組も示されています。

索引は、印・太字・色別で区別され分かりやすい。SDGs、日本の世界遺産、都道府県の名前と位置は、各地方が明記され、世界の国々は、大陸が分かり、国旗が州ごとに掲載されています。

以上の点から、帝国を推薦します。

#### ○北内委員

社会（地図）は、私は東京書籍を推薦したいと思います。

推薦理由は、国際都市おおたの児童には、日本、大田区だけでなくグローバルな視点で物事を考えることができるように配慮された地図帳が良いと思いました。

「首都東京」の5万分の1の地図で、羽田から蒲田、大森、多摩川、田園調布、大岡山まで大田区の地図が詳しく掲載されています。

また、社会の教科書にも出てくる羽田空港、京浜トラックターミナル、小学校駅伝大会の会場である大田スタジアム、社会見学で行く大田市場、ふるさとの浜辺公園、本門寺、大森貝塚跡など、児童に馴染みのある場所が掲載されています。

首都東京における大田区の位置関係がよく分かる地図になっていると思いました。

見開き3ページにわたって、「日本の自然災害」を図示し、地震と大陸プレートとの関係が非常に分かりやすく示されています。ハザードマップ、自然災害にそなえても記載されています。

日本各地の特産品が分かりやすいイラストで図示されています。社会でも申し上げましたが、南北に長い日本の「土地の利用とおもな農産物」、四方を海に囲まれた日本の「おもな漁港と水産物」を分かりやすく図示しています。

世界に目を向けると、南極大陸だけでなく、「ユーラシア、北極」の4千万分の1の地図で北極海が掲載されています。普通の地図帳だと、メルカトル図法になってしまっていて北極海が横に広がってしまうのですが、東京書籍ではきちんと丸く北極海を示してくれています。地球温暖化で激変する北極海の世界での位置を把握することができます。

「日本と世界のおもな山」「日本と世界のおもな川」「日本と世界のおもな湖」では、日本と世界を比較し、分かりやすい図とスケールで示されています。

「世界の州とおもな海洋の広さ」では、南半球が上、北半球が下の地図を表記しています。グローバル化が進む社会では、北半球が特別でないことを示すことができます。

社会の教科書とも整合性がよいと思いました。

学校意見では帝国書院、区民意見では東京書籍に肯定的な意見が多かったです。私は、東京書籍を推したいと思います。

#### ○深澤委員

私は、地図については帝国書院を推薦したいと思います。

帝国書院の地図は色彩が鮮やかで、高低差や市街地と山間部の区別がつきやすい点が良いと思いました。特に、近畿地方の50万分の1の縮尺図では、市街地が大阪湾を囲み、京都に向けて広がっていく様子が一目瞭然で分かりましたし、京阪神についての20万分の1の縮尺では、京都、大阪、神戸の位置関係が分かりやすく掲載されていました。

東京都とその周りの20万分の1の縮尺も掲載されており、こちらも東京湾から埋立地、平地、山間部へと陸地が高くなっていく様子がよく示されていました。

日本の領土とその周りについては、見開き1枚で、北方領土、竹島、与那国島などの島々まで位置関係と写真が掲載されており、分かりやすかったです。

内容についてですが、日本の歴史に関する資料が豊富で、江戸時代の五街道、江戸城を中心とした江戸のまちの様子が描かれており、現在の日本と過去の連続性が見える点が良いと思いました。

日本の産業、自然の様子、自然災害等についても視覚的に見やすく分かりやすく掲載されています。日本の世界遺産、都道府県の名前と位置のページもあり、内容も大変充実していました。

世界地図では、アジア、アメリカ、ヨーロッパ、いずれの地図においても、北極点の上部に宇宙が描かれていることで、地球が一つの惑星であり世界がつながっていることが分かる工夫がされている点が大変よいと思いました。学校意見でも、肯定意見が多くありました。

以上の理由から、私は地図については帝国書院を推薦いたします。

#### ○弘瀬委員

私も帝国を選びました。

全体的に明るく見やすいという点では、優れていると思いました。47都道府県の名前と場所、そして有名なものが示されていました。地図の成り立ちを分かりやすく解説しているというのも、帝国ならではの点だと思います。真横、斜め上、真上と見方の違いが分かりやすく示してありました。

3年生の学習の見出しがついていて、特に3年生で学習するところが分かりやすくなっていました。

浮世絵から東海道がイメージでき、社会科の授業にも利用できる、江戸時代の結びつきでは資料図として他の科目にも利用できます。

地図帳の 83～94 ページでは、世界各国の自然や文化などの特徴を表したイラストが多く載っていました。国語や音楽、外国語の学習に対応していると思いました。

また、主な国名、首都など英語で書かれているのも興味を持ちました。SDGsに関連する写真や資料が、見開きで紹介されていました。

日本の自然災害と防災について具体的な取組も紹介しているところが、よかったと思います。

「地図マスターへの道」に挑戦しようは、楽しく学びながら挑戦できるので、子どもたちは興味を持って挑戦してくれるのではないかと期待しています。

巻末には、子どもが自らの取組を記録できるページがあり、4年間の取組を記録していくことで、達成感が得られると思いました。

以上から帝国を選びました。

#### ○教育長

私は、地図は帝国がよいと思いました。

帝国は、土地の高低差の配色が見やすく、地形の様子もより分かりやすいように思いました。日本は、山地や河川が多くて起伏が大きい地形ですが、地図の見やすさ、山や川なども含めてその地形の見やすさ、地名がよく分かるという点でも、帝国が優れているように思いました。

一方、東書は資料が分かりやすいなどの利点もありますが、地図帳で地図に親しみ、地図を見ながら日本の国土や世界の国々に興味を持つという点では、帝国のほうがよいのではないかと思いました。

また、帝国は、「江戸時代の結びつき」という江戸時代の街道などを表した地図や江戸城を中心とした地図など、歴史の学習の中でも使えるものもあり、よい内容があったと思います。

それでは、地図の審議のまとめをいたします。

審議では、東書を評価する意見もございましたが、帝国を評価する意見が多かったように思います。地図については、帝国が最も評価が高かったということでまとめてよろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

#### ○教育長

それでは、地図については、帝国といたします。

続いて、算数について審議いたします。

委員の皆様にご意見をお願いいたします。

#### ○三留委員

算数は東書を推薦いたします。

今回も、各者ともに問題解決学習の徹底を図る内容になっていると感じました。どの者も各巻の冒頭に問題把握、自力解決、集団検討、まとめと振り返りに関わる問題解決の過程がページの形式に沿って示されています。さらに、問題解決のためのノートづくりの典型例と、作成のポイントが載せられています。東書は2年生以上の各巻で学習の扉と名づけて、1時間分の問題解決の流れと、ノートの作り方例がそれぞれ載せられています。簡潔で分かりやすくまとめてあると感じました。

東書のページ構成の特色として、単元の学習に入る前に、既習経験に関わるページを入れていることがあります。積み上げ教科である算数においては、系統的な学習を進める上でも大切なことと思っています。

各ページには問題が示されていますが、児童が「何をすればよいか」「何ができるようになるよいか」という、めあてが示されている教科書とそうでない教科書があります。通常の授業では、問題を示しめあてを確認するので、めあては必ずあったほうがよいと思います。東書は、ほとんど問題のすぐ下にめあてが示されているのが現場にとっては使いやすいような気がいたしました。

巻末にある補充問題や、面白問題にチャレンジという発展問題も充実しています。さらに、各巻には振り返りコーナーがあって、既習事項を簡潔にまとめています。既習事項を積み上げていく算数科の学習では、必要なページと思いました。

また、東書は児童の実態を考えた様々な教材開発、教材の工夫が見られると感じました。

例えば、3年の三角形を調べる学習では、多くの発行者が色ストローか色棒を使って三角形の仲間分けをしているのに対し、東書は、円の中心や周りの点を結んで、三角形を描かせ、仲間分けをしています。巻末に、円を描いた切り取りできるカードがあり、三角形を書き込みしたカードを実際に移動して仲間分けをしたり、ノードなどに貼ったりするなどして整理することがしやすいと思いました。

各者二次元コードによるコンテンツが載せられています。東書は、全般的に数が豊富で、計算の確かめや図形の書き方など、多様な活動に活用できると思いました。

学習指導要領では、児童がプログラミングを体験しながらコンピュータに意図した処理

を行わせるために、必要な論理的思考力を計画的に取り入れることを示唆していますが、東書の4年以降の教科書の学年プラスには、プログラミングを体験しようのページがあります。二次元コードのコンテンツにアクセスすると、大田区内の小学校で使う教育クラウドサービスにつながり、プログラミングを体感できます。内容も、児童にとって捉えやすいと感じました。

また、1年生では、授業の初めにあたって、別冊を作っている者がいくつかあります。東書もその一つで、「始めよう算数」という別冊をA版で作っています。絵や表も大きく、親しみやすさを感じました。書き込み欄も大きく、1年当初の児童にとっては作業的な学習がしやすいのではないかと考えました。

以上、東書は問題解決学習を重視し、全体に分かりやすさと考えることのバランスの取れた教科書と捉え、推薦することといたしました。

#### ○高橋委員

算数は東書を選びました。

1年生の1分冊を大判にして、数を数えて書くことやブロックを使った活動が丁寧に示され、イラストで楽しく学びを進めていけます。

單元ごとに、大きな丸の中に太字の数字で、学びの区切りが分かりやすい。身近にあるものを使って学習が始まるので、内容に興味を持つことができる。目次には、上巻は次の学習の單元、下巻には上巻で習った單元が掲載され、意欲や振り返りができるようにしている。

学習内容がイラストや児童の吹き出し、写真を使って分かりやすくなるように工夫されている、文字も見やすい、キャラクターのヒントなど参考になる。問いとまとめが枠で囲んであり、表記の仕方がそろっている。

單元末には、キャラクターによる数学的な見方、考え方を再確認するページがある。毎日の学習で使うページで、今日の問題、学習のめあて、考えるときの手がかかり、大切な見方、考え方、学習のまとめ、練習問題がマークや色で構成され、巻末にある算数プラスでは、プログラミングを体験しようもあり、もっと学習したいときや役に立つ情報を探すときに使えるようにしている。

振り返りコーナーでは、学習したことの一覧で復習ができる。「ますりん通信」は興味深い内容になっています。「算数マイノートを作ろう」では、間違えたところは消しゴムで消さないで二重線で消すようにしているなど、ノートの工夫や、括弧などを示しています。

巻末にカードなど、学習に必要な教材がある。索引では、学習した言葉や記号が確かめられる。「私と算数」では、大谷翔平さんの「一つ一つ深く考えることを大切に」、野口聡一さんの「宇宙の秘密は数字で書かれている」、伊藤美誠さんの「算数は今も私の身近に」、表紙の作品について裏表紙で作者の言葉があり、ともに算数とのつながりが話されていて、意欲につながります。

以上の点から、東書を推薦します。

#### ○北内委員

算数は、東京書籍を推薦いたします。

理由は、児童たちには、自分で考える力を養ってほしいので、そのような工夫がなされた教科書がよいと思いました。東京書籍においては、単元の最初の課題が右ページにあるので、児童はまず「自分で考える」ことから学習ができるように工夫されています。

また、全学年、説明・解説が非常に丁寧で、自主的に学習を進めることができるように配慮されています。

区民意見でもありましたが、例えば、3年生の「時こくと時間のもとめ方を考えよう」では、数直線で示すだけでなく時計でも表現しており、児童の実生活に即していると思いました。

4年生では、定規、コンパス、分度器の使い方が、手元が分かる写真と図で示され、自主的に学習できるように工夫されています。

6年生「どんな場合があるかな？」では、最近の児童たちにも馴染みある「パスワードは何通り？」を扱っています。巻末には、「新しい算数+（プラス）」として、情報、プログラミング、振り返り、チャレンジ問題など、更に深く学べるように工夫されています。

また、算数に興味を持ってもらうために、世の中で算数がどう役立っているかを、著名人からの言葉で掲載しています。

4年生では「算数は、今も私の身近に」を卓球選手の伊藤美誠さん、5年生では「一つひとつ、深く考えることを大切に」を野球選手の大谷翔平さん、6年生では「宇宙のひみつは数学で書かれている」を宇宙飛行士の野口聡一さんからの言葉が掲載されています。

また、裏表紙では、仕事と算数のつながりを掲載しています。3年生では「パティシエ」、4年生では「海ごみアーティスト」、5年生では「折り紙作家」、6年生では「建築家」の話が載っており、算数を勉強する動機づけになると思いました。

学校意見、区民意見でも、東京書籍に肯定的な意見が多かったです。以上から、東京書籍を推薦します。

#### ○深澤委員

私も、算数は東京書籍を推薦いたします。

東京書籍では、以前習った単元の復習から内容に入っていき進め方が見受けられました。例えば、先に学習した九九を復習してから割り算に入り、掛け算と割り算に関係性があることを学ぶというようになっています。

算数は、積み重ねが大切なので復習から入り、当該単元について順を追って考えていたり、または違う角度から考えていたりすると理解が深まりますが、この点を意識して作られているのがよいと思いました。

また、説明の仕方も分かりやすいと思いました。例えば、3年生で小数を学ぶときに、水1Lを基準にして説明を統一しています。10等分したうちの、1個分のかさを0.1Lとし、少数の足し算では0.2Lと0.3Lのジュースを合わせると、何リットルになるかというように学びます。

さらに、その後に分数の足し算と引き算を学ぶときも、同じく水のかさを題材として学ぶので、1Lを基準として、小数、分数を学ぶことができる点が大変分かりやすいと思いました。

題材に連続性を持たせている点は、学年を超えても見受けられました。例えば、3年生の棒グラフの単元で使用したけがに注意するポスターを、4年生でグラフの勉強をする際にまた使用したり、3年生の割り算の単元で使用した色紙を、4年生で割り算や分数を学ぶ際にまた使用したりするなどです。題材に一貫性を持たせることで、記憶喚起効果や理解の定着につながると考えました。

区民意見でもありましたし、北内委員もご指摘されましたが、表紙にはそれぞれの学年で算数と関係のある作品を掲載し、教科書の裏側には、作品と算数の関係性が書かれ、算数を学ぶことの意義が記載されていました。

例えば、3年生の表紙にはケーキの作品が掲載されていますが、パティシエの仕事では材料の重さを計算したり、正確に計ったりする作業があるなど、算数とつながりがあることを示しています。何のために算数を勉強するのかということを示すことは、主体的な勉強するために大切なことであると考えます。

学校意見でも、区民意見でも、東京書籍に関する肯定意見が多くありました。

以上の理由から、私は算数に関しては東京書籍を推薦します。

#### ○弘瀬委員

私も東京書籍を推薦いたします。

1年生は大判で開いたときに平らになって、ブロックが教科書の上に置きやすくなっています。教科書に直接書き込めることで、時間を十分に活用することができると思いました。

「めあて」、「まとめ」が分かりやすく使いやすいと思います。太文字やマーカーを引くことによって重要なところがより分かりやすくなったと思います。巻末には補充問題、おもしろ問題、振り返りコーナーなど、自主的に学べるようになっていて重要だと思えました。

「基本」は、単元プロローグ、各自の学習の仕上げで成り立っています。「学びの扉」では、ノート作りを重要視しているところが非常によかったと思います。

6年生の最終単元では、算数の仕上げや算数卒業旅行など、中学に向けての準備を取り組むことができるようになっていました。二次元コードのデジタルコンテンツも、とても充実していると思えました。各学年で有名人からのコラムも勉強になると思いました。

以上から東京書籍を推薦いたします。

#### ○教育長

私も、算数は東京書籍がよいのではないかと思います。

東京書籍は、算数的な考え方が分かりやすく理解できるように工夫されているという点で、一日の長があるように思います。例えば、6年生の分数の掛け算や割り算は、分数を掛けたり割ったりする意味を理解することがなかなか難しく、つまづいてしまう子が多いように思います。

東書では、例えば分数に整数をかける計算のところでは、他者は分数掛ける3というような計算から始めているのですが、東書は分数掛ける2としています。3倍よりも2倍にするほうが、子どもたちにとって分かりやすいように思います。

また、このような分数を掛ける計算などでは線分図を使って考えていくということが行われますが、東書では、線分図も動画になっており、二次元コードを使ってその考え方が分かりやすく理解できるように工夫されている点で一日の長があるように思います。

算数では、まず、自分なりの考えで問題を解いてみる。それから、友達の考えを聞き合っ、算数的な考えを深める、さらに算数的な合理的な効率的な考えを追求するなど、算数的に考えを深めていくことが大切であるというふうに思っています。

東書では登場人物が多く登場し様々な考え方を示し、児童の多様な考えが生かせるようになっており、算数の面白さを追求することを実感できるということで、工夫がなされているように思います。

それでは、審議のまとめをいたします。

算数については、東書が最も評価が高かったということで、まとめてよろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

#### ○教育長

それでは算数については、東書といたします。

続いて、理科について審議いたします。

委員の皆様にご意見をお願いいたします。

#### ○三留委員

理科は、東書を推薦いたします。

今回の理科は、多くの者が単元のまとまりごとの学習過程を一層重視したつくりになっています。東書もその一つで、「問題をつかむ」「調べる」「まとめる」の大きなくくりの中で、問題発見から、考察、結論まで分かりやすくページが流れているように感じました。

今回の東書の教科書は、問題発見のスペースを多く取っています。単元の最初のページが、レッツトライという見開きページになっていて、体験や観察を促し、問題をつかむ設定になっています。その後、予想、計画、観察、実験、考察、まとめの過程を分かりやすく示していると思いました。特色として、問題解決の流れを1本の学びのラインでつないで示していることがありますが、これにより、児童が見通しを持って学習に臨んだり、単元の学習過程の流れを把握したりできやすいのではないかと考えました。レッツトライの内容は、児童の疑問や興味を喚起する内容となっており、学習の動機づけを図るために、適切な内容のものが多いいと思いました。

5年、流れる水の働きと土地の変化の単元では、各者単元の学習の終わりに、川の防災に触れていますが、東書は大雨によってどのような災害が起こるのか、写真とキャプションで分かりやすく解説した後、川の水による災害から生命を守るために、自分たちにできることを話し合う内容になっています。多摩川の下流に位置する大田区の児童が、川の防災にしっかり触れることは大切なことと思いました。

6年、大地のつくりの変化の単元でも、火山活動や地震の防災に関わって、4ページにわたって必要な事項を掲載しています。

それぞれの学年には、私の研究のページがあります。興味を持った研究テーマを設定し、調べ方、まとめ方などを各巻見開きで掲載しています。夏休み前に、こうした学びのページがあるのもよいと思いました。

単元の終わりには、「振り返ろう」と「確かめよう」「考えよう」のページがあります。「振り返ろう」は、自分なりに学習のまとめをするための記述例が示されていますが、児童にとって参考になると思いました。「確かめよう」「考えよう」のページも、押さえるところを押さえ、発展的な内容を示して考えさせるようにしています。

各所にある「理科の世界探検部」は、単元の学習と関連した話題を提供するコーナーですが、児童にとって面白く興味を引く内容のものが多く感じました。

各学年の巻末には、「理科の調べ方を身につけよう」というページがあります。各者同様のページがありますが、東書は器具の使い方などが分かりやすく提示されていると思いました。各学年にある問題解決学習におけるノートや記録カードの書き方などは、典型例として児童に示す必要があると思いました。発表や話し合いの仕方についての記述もあり、参考になります。

また、どの学年にも「コンピュータの使い方」のページがあり、記録、調査、まとめなど様々な使い方を示しているのも学習の多様化、充実につながります。理科室の使い方について各者記載されていますが、東書の内容も分かりやすいと感じました。

プログラミング学習については、巻末に理科とプログラミングのページを作って、発達段階に合わせた教材を提供しています。二次元コードを読み取ると、画面を操作して手軽にプログラミングを体験できるようになっています。

SDGsに関わっては、各巻の巻末に、「私たちの未来、理科とSDGs」を掲載していますが、6年では、各単元の学習の前に「地球と私たちの暮らし」という特設単元を設けて、私たちの暮らしと環境との関わりを考えさせ、6年で学ぶ学習とのつながりを示しています。ここでは、よりよい環境を残していくために、私にもできるSDGsとして、「この学習を通して、あなたができることは何か考えていきましょう」として、SDGsへの意識づけを図っています。

今回の東書の大きな特色は、二次元コードによるコンテンツが大変充実していることがあります。各巻の最終ページには、「デジタルコンテンツで学びを広げよう」がありますが、実験方法、資料、学び方など、様々なコンテンツが紹介されています。特に、動画が豊富で内容を見るとドローンの活用やパノラマ動画など、かなり質の高い動画が作られています。映像資料の活用は、今後の理科学習には欠かせないものになってきたという感じがいたしました。

東書はA版で図版等が大きく、親しみやすく、見やすい紙面構成になっているとも感じ、推薦することといたしました。

#### ○高橋委員

理科は東書を選びました。

軽量の紙を使用することなどで、児童の負担を軽減している。表紙に、3年生は「見つけたい」、4年生は「確かめたい」、5年生は「詳しく調べたい」、6年生は「もっと深めたい」とめあてを表記しています。ページを開くと、「不思議だね」、「なんでだろう」と

理科の始まりを写真で導いています。

理科で学ぶことが単元別に色分けされ、学ぶことが見開きページに写真で紹介されて分かるよう工夫されている。学び方は問題をつかむ、調べる、まとめる、広げるで構成され、「問題をつかもう」では、問題は緑で大きく囲み枠、観察、活動、実験はオレンジ、まとめ、児童の活動は次ページに掲載されているので、学習の流れが視覚的にも分かりやすい。

レッツトライで始まる単元の導入に掲載されている写真などは、児童の興味関心を高め、主体的に学習を進められそうです。危険の注意を示すことを示し、用意するものが右ページ下段にチェックするように示してあります。

単元末には、「確かめよう」で学んだことの振り返りができる。ノート書き方、記録カードの書き方が学んだことをノートに整理しておくとして役立つとして掲載されている。

「理科の世界探検部」は、興味深く読める内容です。「私の研究」は、詳しく知りたくなったことを調べる手だてが順序よく掲載されている。深める活動として、「施設を活用しよう」などがあり、たくさんの発見につながるように工夫されている。

理科の調べ方を身につけようでは、書く、話す、深める、観察、実験、それぞれ別に詳しく学ぶことができます。

実験のページには、理科室の使い方もイラストで示され、分かりやすく工夫されています。

理科とプログラミングでは、防災のプログラム、スマート農業、熱中症系の仕組み、身の回りの仲間分けが掲載されていて、学習につながる。

巻末には、デジタルコンテンツで学びを広げようがあり、二次元コードを読むことで、各単元の具体的な学習内容を確認できる。

理科とSDGsは写真があり、学んだページを確認できる。1年間の振り返りができるようにまとめページがあり、学習の確認ができる。

以上の点から、東書を推薦します。

## ○北内委員

理科は、東京書籍を推薦します。

算数同様、児童たちには、自分で問題解決できる力を養ってほしいので、そのような工夫がなされた教科書がよいと思いました。

全学年、問題、実験/観察/調査、まとめ、活動、実社会での応用という「学びのライン」を示し、課題解決型の学習を進めることができると思いました。

また、6年生の「海洋ごみ問題に対する取り組み」では、持続可能な開発目標（SDGs）にも言及しています。6年生「変わり続ける大地」では、自然災害を紹介し、備え、生命を守る行動を意識づけています。

全学年、巻末の「理科の調べ方を身につけよう」では、「ノートのかき方」「発表のしかた」「話し合いのしかた」、実験器具の使い方などが記載され、自主的に学習ができるように工夫されています。

「こんなところにも！」理科の世界 たんけん部では、実社会での応用例を紹介し、理科に興味を持ってもらえるように工夫されています。例えば、3年生では「太陽の光でそうめんをかわかす」、4年生では「四季のめぐみで料理をつくる」、5年生では「東京スカ

イツリーのふりこ」、6年生では「自転車にはてこがいっぱい」を紹介しています。

最後に、6年生の教科書に、宇宙飛行士の山崎直子さんからのメッセージ「地球に生きるみなさんへ」が紹介され、すばらしい言葉なのでおたの児童の皆さんにぜひ読んでもらいたいと思いました。

「理科は、人類の試行さく誤の積み重ねであり、数々の失敗もくり返ししながら、私たちが身につけてきた知恵がつまったものです。きっかけは身近な好奇心から。不思議に思う気持ち、ワクワクする気持ちを忘れずに、よりよい「宇宙船地球号」を未来につないでいきましょう。」と述べています。是非、ワクワクする気持ち、不思議に思う気持ちをずっと持ってもらいたいと思いました。

学校意見では、東京書籍、大日本図書、区民意見では、大日本図書に肯定的な意見が多かったですが、全体的なバランスを考えて、東京書籍を推薦します。

### ○深澤委員

私も理科は東京書籍を推薦します。

東京書籍は、情報量が多過ぎない点、春夏秋冬を意識して構成されている点、登場人物の吹き出しに当該単元の視点や問題点のヒントが隠されている点、実験観察の仕方が分かりやすい点がよいと考えました。

特に、6年生の月の形と太陽の項目で、ボールに光を当てて月の形の見え方を調べる実験では、自分を地球、ボールを月と見立てて、月の見え方の移り変わりを体験しながら学習できるので、大変理解しやすくよかったです。

単元の最後に、理科の世界探検部のページがあり、その単元で学んだことが、実生活でどのように生かされているかについて学ぶことができる点もよいと思いました。

6年生の電気と私たちの暮らしの項目では、電気を効率的に使うための工夫として、人感センサーが例示されており、人感センサーがプログラミングを利用したものであることが示され、プログラミングするための手順が二次元コードで示されているので、実際に自分で使ってみることができるのが面白いと思いました。

そのほかにも、6年生の物が燃えるためには、空気が必要であることを学ぶ単元では、空気のない宇宙空間でロケットがなぜ進み続けることができるのかについての説明があり、4年生の物の温まり方を学ぶ単元では、コンビニによくある蓋のない冷凍庫はなぜ冷たいままなのかの説明があり、身近なところに理科が関係していることがよく分かりました。

理科がどのように私たちの生活や社会の中に生かされているかについて、子どもたちが気づくことが理科への興味につながると思います。東京書籍は、その点を意識されているのがよいと思いました。

東京書籍の学習の進め方は、問題、実験、まとめの後に、振り返ろう、確かめようという項目があります。

「振り返ろう」は、その単元で学んだことをノート形式でまとめてあるので、学んだことを整理することができ、確かめようでは、その単元で学んだことを自分の言葉で説明します。大田教育ビジョンの令和4年度評価で、理科の期待正答率が目標に達していなかったことに関して、有識者から教科学習の基礎・基本を重視し、その学びの過程で、見方、考え方の学習方法が身につくものと考えたいという意見がありましたが、授業で学んだこ

とを自分の言葉で書いたり説明したりすることは、学習が身につくために有用な方法であるため、東京書籍の学習の進め方は、本区におけるこれからの理科教育に沿うものであると考えました。

また、学校意見も東京書籍を多く推薦しているものと思いました。

以上の理由から、私は理科については東京書籍を推薦いたします。

#### ○弘瀬委員

理科は東京書籍を推薦いたします。

本が大きくて見やすくて分かりやすいこと、それから問題をつかむ、調べる、まとめる、広げる、振り返るで児童主体の問題解決がきちんとできる構成となっていて、学びのラインが分かりやすいと思いました。

二次元コードが充実し、4年生の暖かさと生き物の単元では、47都道府県の自然の様子を写真で見ることができ、ドローンで撮影した動画や、360度見渡せるパノラマ動画など非常に興味を引くものが多くありました。

キャリア教育に関連した人の誕生や、STEAM教育に関連した昆虫の観察、あるいは昆虫をまねて、ロボットを作るなど、さらにSDGsなど、コラムを多く掲載しているところがいいと思いました。

働く人、消防士だとか料理家などのインタビュー形式のコラムも多く掲載していました。ここでもSDGsへの取組、防災訓練、減災教育の取組、プログラミング教育など、これからの課題に対応していくための力を育てるための取組がなされていると考えました。

以上より、東京書籍を選びました。

#### ○教育長

私も東書がよいのではないかと思います。

まず、東書は二次元コードが充実していると思いました。今までなかなか観察や実験が難しかった星の動きや、チョウの脱皮などについて動画を使って、観察を補うことができるように思います。

東書の二次元コードは、教科書と連動した動画や写真、資料、観察カードなどが多く、理科の学習を深めるために有効に活用できるというふうに思います。

また、東書は問題解決的な学習過程が明確です。問題をつかもう、予想しよう、計画しよう、観察実験、考えよう、まとめ、広げようなど学習過程が丁寧で、子どもたちが探求的に理科の学習を進めることができるように思います。

また、東書は大判で写真や図が大きく迫力があり、興味を引く紙面構成になっています。これは資料的な要素が二次元コードに示されている分、教科書本体が見やすく分かりやすい構成になっているからだと思っております。

それでは、審議をまとめたいと思います。

理科については、東書が最も評価が高かったということでまとめてよろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

○教育長

それでは、理科については東書といたします。

以上で、本日の教科書採択についての審議は終了いたします。

次回は、明日、8月9日、水曜日、午後2時に開催する臨時会において、生活、音楽、図画工作、家庭、保健、英語、道徳の7種目について審議を行います。各委員につきましては、引き続き研究をお願いいたします。

なお、令和6年度使用大田区立小学校教科用図書採択については、議案の決定をもってなされるため、明日の議案の審議終了後に議案の提出がなされ、議決をいただく予定でありますので、申し添えておきます。

これをもちまして、令和5年第8回教育委員会定例会を閉会といたします。

(午後4時3分閉会)

令和5年 第8回 教育委員会 定例会 8月8日(火) 午後2:00～

大田区民ホール・アプリコ 展示室

<令和6年度使用大田区立小学校教科用図書採択について>

<部課長の報告事項>

- 教育総務部長
- 参事（教育施設担当）
- 教育総務課長
- 教育施設担当課長
- 副参事（教育地域力担当）
- 副参事（施設調整担当）
- 学務課長
- 指導課長
- 指導企画担当課長
- 学校支援担当課長
- 教育センター所長
- 幼児教育センター所長
- 大田図書館長

令和5年8月8日

令和5年第8回教育委員会定例会日程

日程第1 令和6年度使用大田区立小学校教科用図書採択  
について